

第 25 回日本環境毒性学会研究発表会 参加案内

主催：日本環境毒性学会

共催：国立研究開発法人 国立環境研究所（〒305-8506 茨城県つくば市小野川 16-2）

期日：2019 年 9 月 25 日（水）～ 27 日（金）

会場：国立研究開発法人 国立環境研究所 A 会場：大山記念ホール，B 会場：中会議室

スケジュール：

時間	A 会場（大山記念ホール）	B 会場（中会議室）
1 日目（9 月 25 日水曜日）		
08:30－	受付開始	
09:15－09:30	開会の挨拶	
09:30－12:30	奨励賞応募講演発表	休憩室
12:30－13:30	昼食休憩（幹事会：特別会議室）	
13:30－14:00	ポスター発表 1 ^{注1} （大山記念ホール前）	企業展示 ^{注2} （中会議室前）
14:00－16:35	一般講演発表 1A-1～1A-7	一般講演発表 1B-1～1B-7
16:35－17:20	ポスター発表 2（大山記念ホール前）	企業展示（中会議室前）
17:20－18:00	自由集会：展示企業紹介コーナー	
18:00－19:00	自由集会：SETAC Japan コーナー	
2 日目（9 月 26 日木曜日）		
09:00－10:00	一般講演発表 2A-1～2A-3	休憩室
10:10－12:10	企画セッション① 環境毒性学の今昔～先輩研究者に聞く	
12:10－13:00	昼食休憩	
13:00－13:50	学会総会、CERI 賞授賞式	
14:00－17:00	特別シンポジウム 化学物質に関わる環境政策の現場から	
18:30－20:30	懇親会	
3 日目（9 月 27 日金曜日）		
9:30－12:00	企画セッション②環境リスク評価における (Q)SAR 活用の現状と未来	
12:00－12:10	閉会の挨拶	
13:20－14:30	国立環境研究所施設見学会	
13:30－17:10		第 8 回農薬勉強会 ^{注3}

注 1：ポスターは 1 日目のコア発表タイム終了後も 2 日目終了時まで掲示します。

注 2：企業展示は期間中常設されます。

注 3：農薬勉強会は研究発表会とは別途開催されますが、研究発表会参加者も参加可能です。

昼食および飲料について：

会場近くには昼食をとる場所（食堂の提供食数）が限られているため、弁当の事前申込をいただいた方にはお弁当と紙パックのお茶（500 円）を手配しています。お弁当は A 会場または B 会場にてお召し上がり下さい。弁当代は、受付時に参加費とともにお支払い下さい。

また、本発表会ではワンウェイプラスチックの使用削減のため、原則、ペットボトル飲料等の配布を控えさせていただきます。飲料については各自でご用意の上、ご来場いただけますようお願いいたします。

学会総会について：

下記日程で総会を行いますので学会員の皆様は必ずご出席ください。また、CERI 賞授賞式および奨励賞・ポスター賞受賞者の発表も行いますので、応募者の皆様もご出席願います。

日時：9 月 26 日（木）13:00－13:50

場所：A 会場（大山記念ホール）

懇親会について：

日時：9 月 26 日（木）18:30－20:30（開場：18:00）

場所：インカローズ（INCA ROSE） スパニッシュ&イタリアン（〒305-0033 茨城県つくば市東新井 19-6、Tel: 029-859-8677）

特別シンポジウム終了後、会場まで送迎バスを出します。詳細は当日ご案内いたします。

研究発表会参加費および懇親会参加費について：

研究発表会参加費および懇親会参加費は以下の通りです。当日、受付にて現金支払いとなりますので、つり銭のないようご準備ください。なお、当日学会入会手続きした場合も会員価格になりますので、これを機に是非学会へご入会ください。

		一般	学生	シニア ^{注1}
研究発表会 参加費	会員	4,000 円	1,000 円	2,000 円
	非会員	8,000 円	3,000 円	
懇親会参加費 ^{注2}		5,000 円	1,000 円	5,000 円
学会年会費		4,000 円	1,000 円	4,000 円

注1：現・旧環境毒性学会員のうち 65 歳以上の方

注2：招待講演者および賞受賞者は懇親会参加費が免除されます。

口頭発表される方へ：

1. 発表用パソコンとして Windows PC（Windows 10, Office PowerPoint 2016）をご用意します。
2. Macintosh をご利用の方は Windows で利用可能な形式にするか、ご自身で PC をご用意ください。プロジェクターへの接続端子は D-sub または HDMI になりますので、必要に応じて変換器もご用意ください。
3. ご発表のファイルはファイル名を演題番号（または企画名）と苗字にしてください（例：1A-1 山本、企画①菅谷）。

4. ファイルは、開会前か昼食休憩～ポスター発表中に各会場の PC に保存し、動作確認をお願いいたします。

9/25（水）：開会前 8:30－9:10, 昼食休憩～ポスター発表 13:00－14:00

9/26（木）：開会前 8:30－9:00, 昼食休憩 12:00－13:00

9/27（金）：開会前 8:30－9:00

5. セキュリティ対策のため、ファイルは原則、下記のファイルアップロード用サイトを通じて各会場の PC に保存していただきます。なるべく事前にアップロードしていただくか、当日は会場の無料 WiFi を通じてアップロードしてください。WiFi に接続できない場合は、USB にてお持ちください。

URL：https://fxs.nies.go.jp/public/L_LIQAySm0pAT3EBTc9toM4EUiu7WCL3BwL3Etz_bKbU

パスワード：nies19

※一度アップロードしたファイルは削除することはできないため、ファイルを差し替えた場合は、別ファイル名とコメントをつけて再度アップロードしてください。

6. スライド操作は、発表者ご自身でお願いいたします。
7. 奨励賞応募・一般講演発表は発表 15 分＋質疑討論 5 分です。必ず下記時間内で終了するようにお願い致します。
- 一鈴：13 分，二鈴：15 分（発表終了），三鈴：20 分（質疑応答終了）
8. 企画セッションおよび特別シンポジウムの発表時間は別途座長の指示に従ってください。

ポスター発表される方へ：

1. ポスターは A0（縦長）で作成してください。
2. ポスターの掲示は 1 日目（9/25）の昼食休憩終了（13:30）までに行い、撤去は 3 日目（9/27）の 9:00 までをお願いいたします。
3. 1 日目の 13:30-14:00, 16:35-17:20 にポスター発表のコアタイムを設けます。コアタイム中は必ず自分のポスター前で待機してください。

奨励賞およびポスター賞について

「奨励賞」は、大学院生や実務に就かれて間もない若手の研究者の方を対象に、研究経験年数（「高専・学部生・修士学生」と「博士・社会人」で区分け）を考慮した上で、選考委員によって応募者の口頭発表の審査を行い、授与致します。

「ポスター賞」は、選考委員によってポスター賞応募者の審査を行い、授与致します。

各受賞者は学会総会（9/26（木）13:00～13:50）にて発表し、懇親会で授賞式を行います。なお、受賞者は懇親会参加費が免除されます。

学会会場（国立環境研究所）へのアクセス

つくばエクスプレスつくば駅から

- ・国立環境研究所の送迎バス（乗員 28 名程度、2 台）：時刻は別途ご連絡いたします。なお、終了時もつくば駅への送迎バスを手配します。

- ・バス：4 番乗り場から「ひたち野うしく駅行」もしくは「学園南循環 左回り」に乗車，「環境研究所」バス停下車（300 円），所要時間約 10～15 分，1 時間に 3～4 本程度
- ・タクシー：所要時間約 10～15 分

常磐線ひたち野うしく駅から

- ・バス：東口 1 番乗り場から「つくばセンター行」もしくは「筑波大学中央行」に乗車，「環境研究所」バス停下車（370 円），所要時間約 20～25 分，1 時間に 3 本程度
- ・タクシー：所要時間約 15 分

アクセスの詳細は下記の URL を参照してください（バス時刻表あり）。

<http://www.nies.go.jp/gaiyo/kotu/index.html>

自家用車の場合：

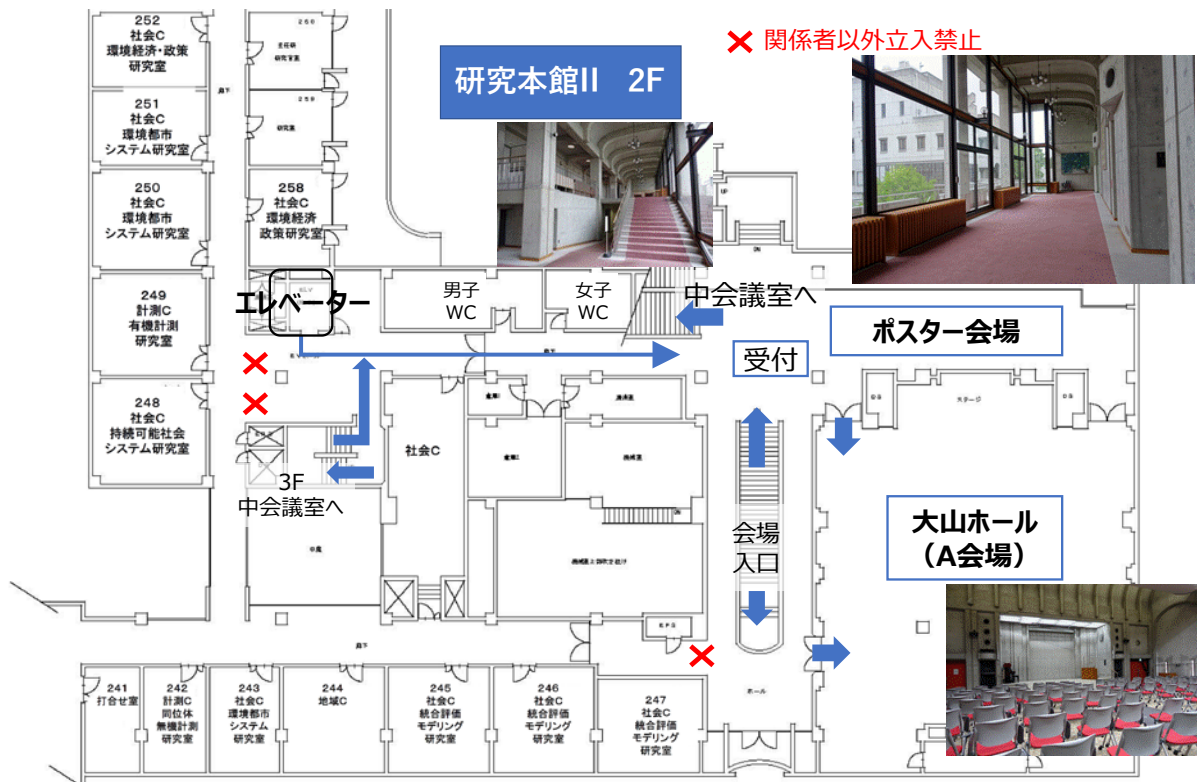
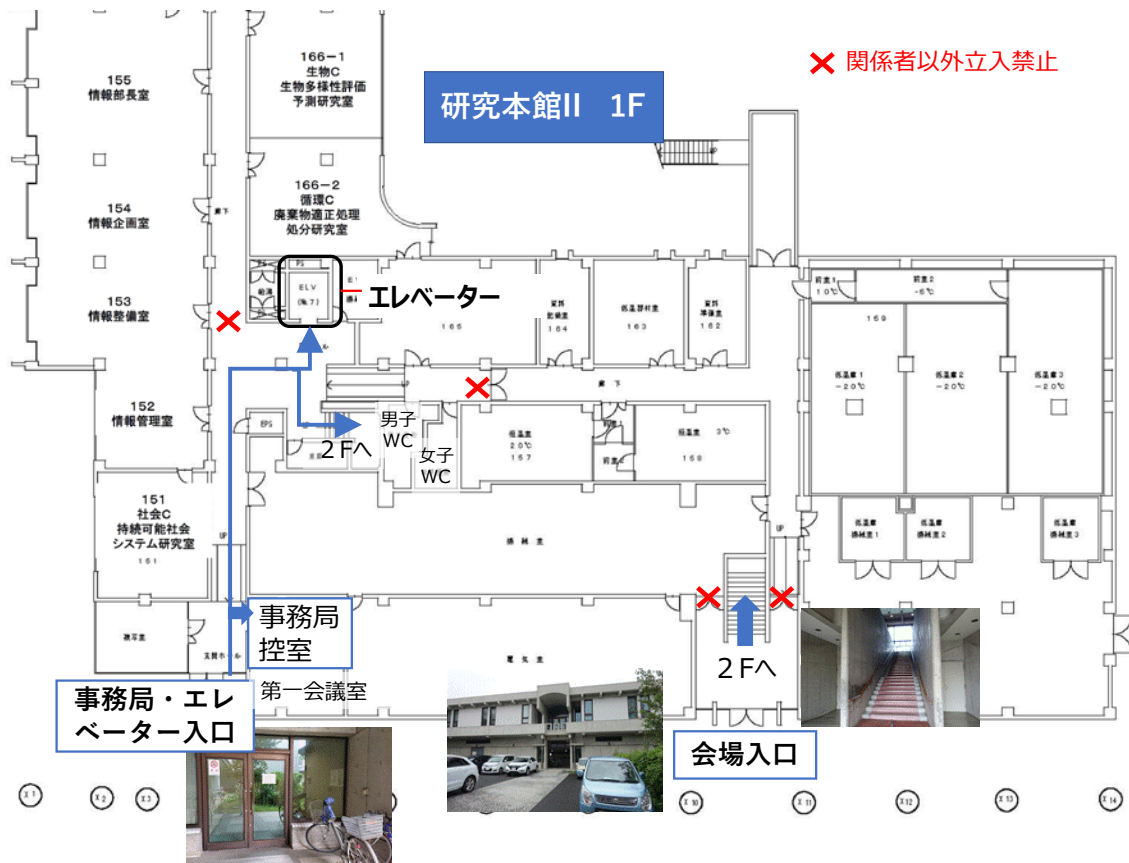
大山記念ホール前に駐車可能ですが、スペースに限りがあるため、自家用車で来られる方は、9 月 20 日（金）までに事務局までご連絡ください。当日は守衛室にて来場手続きが必要です。

学会会場へのアクセス：

国立環境研究所正門の守衛室に、学会参加の旨をお伝えいただければ手続き不要でご入場いただけます。学会会場は正門から直進し、突き当りで右折した先にある建物（研究本館 II）です。



発表会場フロアガイド



発表プログラム

9月25日(水) 午前 A会場(大山記念ホール)

08:30ー 受付開始

09:15ー09:30 開会の挨拶(国立環境研究所 渡辺知保理事長)

【奨励賞応募講演発表】

座長(前半): 眞野浩行(産業技術総合研究所), 山岸隆博(国立環境研究所)

09:30ー09:50 S-1 水田除草剤がニゴロブナの孵化及び仔稚魚に及ぼす影響

○閻 雨佳, 須戸 幹, 大久保卓也

滋賀県立大学大学院・環境科学研究科

09:50ー10:10 S-2 魚カイロモン存在下で産まれたオオミジンコ(*Daphnia magna*)の仔虫は殺虫剤に弱い

○小田悠介¹, 花里孝幸¹, Chang Kwang-Hyeon², 坂本正樹³

¹信州大学大学院・総合医理工学研究科, ²慶熙大学校・応用環境科学研究科, ³富山県立大学大学院・工学研究科

10:10ー10:30 S-3 炭素繊維の環境影響に関する研究

○福田梨乃, 森山章弘, 岩橋均

岐阜大学・自然科学技術研究科

10:30ー10:50 S-4 メダカに対するアセトアミノフェンの温度依存的生態影響

○片岡知里^{1,3}, 杉山貴洋⁴, 北川光⁴, 武島綾香⁴, 鏡良弘⁵, 立田晴記⁶, 柏田祥策^{3,4}

¹日本学術振興会特別研究員, ²国立水俣病総合研究センター, ³東洋大学大学院・生命科学研究科, ⁴東洋大学・生命科学部, ⁵瑞輝科学生物株式会社, ⁶琉球大学・農学部

10:50ー11:00

休憩

座長(後半): 石橋弘志(愛媛大学), 羽野健志(瀬戸内海区水産研究所)

11:00ー11:20 S-5 CaCO₃ ナノ粒子の見かけ上の生体影響

○長屋知里, 岩橋均

岐阜大学・自然科学技術研究科

11:20ー11:40 S-6 抗凝血系殺鼠剤が小笠原諸島在来固有種に与える影響の評価ーエジブションルーセットオオコウモリを用いた PK/PD 試験ー

○真砂皓大, 武田一貴, 中山翔太, 森田鮎子, 池中良徳, 石塚真由美

北海道大学・大学院獣医学研究院

11:50ー12:10 S-7 遺伝子ノックアウトメダカを用いた毒性試験によるトリブチルスズ結合タンパク質の毒性軽減機能の解析

○高村匠¹, 榎真太郎¹, 島崎洋平¹, 大嶋雄治¹, 鶴木陽子², 邱旭春³

¹九州大学大学院農学研究院, ²九州大学農学研究院研究教育支援センター, ³江蘇大学

12:10ー12:30 S-8 メタボロミクスによるセルトラリンの魚類に対する影響評価

○関圭樹¹, 松尾純平², 國師恵美子², 宇野誠一²

¹鹿児島大学大学院連合農学研究科, ²鹿児島大学・水産学部

12:30ー13:30

昼食休憩(A・B会場)

13:30ー14:00

ポスター発表 1(A会場前)

9月25日(水) 午後 A会場(大山記念ホール)

【一般講演発表】

座長：柏田祥策（東洋大学）

- 14:00－14:20 1A-1 ヒメダカ胚・仔魚におけるマイクロ RNA の発現解析
○石橋弘志¹, 内田雅也², 平野将司³, 有菌幸司⁴, 富永伸明²
¹愛媛大学大学院・農学研究科, ²有明工業高等専門学校・創造工学科, ³熊本高等専門学校・生物化学システム工学科, ⁴熊本県立大学・環境共生学部
- 14:20－14:40 1A-2 酸化ストレスバイオセンサーゼブラフィッシュを用いた重金属ナノ粒子の魚類胚発生への影響の評価
○Aya Takesono¹, Paula Schirmacher^{1,2}, Sulayman Mourabit¹, Tetsuhiro Kudoh¹ and Charles R. Tyler¹
¹Biosciences, College of Life and Environmental Sciences, University of Exeter, UK, ²Biology, Faculty of Science and Engineering, University of Hull, UK
- 14:40－15:00 1A-3 Annual Characterization and Variations in the Diversity of Airborne Insect
○Panyapon Pumkaeo¹, Junko Takahashi^{1,2} and Hitoshi Iwahashi¹
¹Division of Science of Biological Resources, United Graduate School of Agricultural Science, Gifu University, ²National Institute of Advanced Science and Technology (AIST)

15:00－15:15

休憩 15分

座長：村田里美（土木研究所），勝又政和（浜松ホトニクス株式会社）

- 15:15－15:35 1A-4 第3回生態影響試験チャレンジテストの結果
○山本裕史¹, 阿部良子¹, 渡部春奈¹, 山岸隆博¹, 鎌迫典久²
¹国立環境研究所, ²愛媛大学
- 15:35－15:55 1A-5 海産・汽水生物を用いた慢性毒性短期試験法の開発
○河野真知¹, 山岸隆博¹, 岡健太¹, 澤井淳², 岡村哲郎², 宗宮麗³, 隠塚俊満³, 山本裕史¹
¹国立環境研究所, ²いであ株式会社, ³瀬戸内海区水産研究所
- 15:55－16:15 1A-6 遅延発光を用いたコウキクサに対する農薬曝露による作用機序の推定
○佐藤由紀子, 勝又政和
浜松ホトニクス株式会社
- 16:15－16:35 1A-7 事業場排水を用いた藻類発光阻害試験と藻類生長阻害試験の比較
○渡部春奈¹, 勝又政和², 竹内彩乃², 佐藤由紀子², 幾島祐子², 日置恭史¹, 山岸隆博¹, 山本裕史¹
¹国立環境研究所, ²浜松ホトニクス株式会社
- 16:35－17:20 ポスター発表 2(A会場前)
- 17:20－18:00 自由集会：展示企業紹介コーナー
- 18:00－19:00 自由集会：SETAC Japan コーナー

9月25日（水）午後 B会場（中会議室）

【一般講演発表】

座長：大津和久（農業環境変動研究センター）

- 14:00－14:20 1B-1 ミジンコの表現型可塑性に及ぼす生物的・非生物的環境ストレスの影響
○坂本正樹¹，福島侑樹¹，眞野浩行²，時下進一³
¹富山県立大学，²産業技術総合研究所，³東京薬科大学
- 14:20－14:40 1B-2 殺虫剤の短期曝露がタイリクアオムキミジンコ(*Scapholeberis kingi*)に及ぼす継世代影響
○石母田誠，北原彩，富山成人，大山和俊
一般財団法人残留農薬研究所
- 14:40－15:00 1B-3 短期スクリーニング法を用いたフェニルプロペン類の幼若ホルモン様作用の検出
○阿部良子¹，渡部春奈¹，山本裕史¹，鑑迫典久²
¹国立環境研究所，²愛媛大学

15:00－15:15

休憩 15分

座長：林岳彦（国立環境研究所），岩崎雄一（産業技術総合研究所）

- 15:15－15:35 1B-4 アキアカネ類幼生に対する稲箱施用殺虫剤の影響評価－卵の低温保存前の温度が孵化に与える影響の検討－
○大津和久
農研機構農業環境変動研究センター
- 15:35－15:55 1B-5 SWIR-HSI 法によるマイクロプラスチックの迅速多検体分析と海浜汚染実態予備調査
Silvia Serranti¹，Ludovica Fiore¹，Giuseppe Bonifazi¹，武島綾香²，竹内久登³，
○柏田祥策^{2,3}
¹Department of Chemical Engineering, Materials & Environment, Sapienza – University of Rome, Italy, ²東洋大学・生命科学部，³東洋大学・生命環境科学研究センター
- 15:55－16:15 1B-6 河川の水生昆虫に対する重金属濃度介入効果の推定－バックドア基準に従った回帰分析による統計的因果推論－
○竹下和貴，林岳彦，横溝裕行
国立環境研究所
- 16:15－16:35 1B-7 金属の複合影響は加算？それとも非加算？
○加茂将史
産業技術総合研究所 安全科学研究部門

9月26日(木) A会場(大山記念ホール)

【一般講演発表】

座長：鑑迫典久(愛媛大学)

- 09:00-09:20 2A-1 **メダカにおけるマイクロプラスチックの体内動態**
○大嶋雄治, 劉揚清, 小川聖, 島崎洋平
九州大学大学院農学研究院
- 09:20-09:40 2A-2 **紫外線照射による劣化したナイロン6粒子とムレミカヅキモの吸着との関係**
○村田里美¹, 鈴木裕識¹, 山下洋正¹, 阿部翔太², 李善太³, 桜井健介³
¹土木研究所・水環境研究グループ, ²エンテックス株式会社, ³土木研究所・先端材料資源研究センター
- 09:40-10:00 2A-3 **生態影響に係る複合影響評価-Tier2 有害性評価の Case study: アクリル酸アルキルエステル類**
○小澤ふじ子¹, 後藤碧¹, 豊田敬子¹, 大野浩一¹, 山本裕史¹, 鑑迫典久², 菅谷芳雄¹, 山崎邦彦³
¹国立環境研究所, ²愛媛大学, ³環境省

10:00-10:10 休憩 10分

企画セッション①「環境毒性学の今昔～先輩研究者に聞く」

座長：山本裕史(国立環境研究所)

- 10:10-10:30 菅谷芳雄(国立環境研究所) 日本環境毒性学会の設立当時について～事務局サイドからふりかえる～
- 10:30-10:50 西村哲治(帝京平成大学) バイオアッセイ研究の今昔～バイオアッセイの環境毒性評価適用への黎明期～
- 10:50-11:10 菊地幹夫(元 神奈川工科大学) この50年をふり返って
- 11:10-11:30 小山次朗(元 鹿児島大学) 水産学から見た環境研究
- 11:30-11:50 楠井隆史(元 富山県立大学) バイオアッセイの環境管理への適用を目指して
- 11:50-12:10 有菌幸司(熊本県立大学) バイオアッセイ防備録

12:10-13:00 昼食休憩(A・B会場)

13:00-13:50 日本環境毒性学会 総会

13:50-14:00 休憩 10分

特別シンポジウム「化学物質に関わる環境政策の現場から」

座長：山本裕史(国立環境研究所)

- 14:00-14:15 山本裕史(国立環境研究所) 開催趣旨説明、環境省推進費および環境行政に期待すること～国研の立場から
- 14:15-14:30 大嶋雄治(九州大学) 環境省推進費および環境行政に期待すること～大学研究者の立場から
- 14:30-14:45 稲若邦文(日本化学工業会) 日化協の取り組み～LRIの紹介
- 14:45-15:00 櫻井希実(環境省化学物質審査室) 化学物質審査規制法について～現在の技術的課題と新たな研究への期待
- 15:00-15:15 上迫大介(環境省農薬環境管理室) 農薬取締法に基づく農薬登録基準設定について～水産動植物の被害防止に係る農薬登録基準の設定

15:15-15:25 休憩 10分

- 15:25-15:40 山崎邦彦(環境省環境保健部) 化学物質のリスク評価に向けた課題の検討(内分泌かく乱作用、PPCPs及び複合影響に関する検討状況)
- 15:40-15:55 鈴木克彦(環境省環境リスク評価室) 化学物質の環境リスク初期評価について
- 15:55-16:10 伊藤史雄(環境省水環境課) 最近の水環境行政の動向について～水質汚濁に係る環境基準、生物応答試験を用いた排水の評価手法
- 16:10-17:00 総合討論
- 18:30-20:30 懇親会(学会会場からの送迎バスあり)

9月27日（金） A会場（大山記念ホール）

- 09:30－12:00 企画セッション②「環境リスク評価における(Q)SAR 活用の現状と未来」
座長：大野浩一（国立環境研究所）
- 09:30－09:40 大嶋雄治（九州大学 農学研究院）趣旨説明
- 09:40－10:15 櫻谷祐企（（独）製品評価技術基盤機構）化学物質規制における QSAR 活用の
動向
- 10:15－10:45 古濱彩子（国立環境研究所）生態毒性予測の活用と適用範囲
- 10:45－11:15 竹下潤一（産業技術総合研究所）ヒト健康リスク評価のための QSAR 研究の
課題
- 11:15－11:45 藤井健吉（花王安全性科学研究所）新しい評価系でリスク評価フローを組み替
える～歴史的経緯からの示唆
- 11:45－12:00 自由討議
- 12:00－12:10 閉会の挨拶

- 13:20－14:30 国立環境研究所施設見学会（13:20 大山記念ホール前集合、事前申込制）
- 13:30－17:10 第8回農薬勉強会（中会議室）

【ポスター発表一覧】

番号	演題名・氏名(所属)
ポスター賞審査対象	
P-1	マイクロプラスチックの素材の違いと PAHs の吸着特性 ○笠原晴海, 世羅弥江子, 岡崎友紀代, 高橋真, 鎌迫典久 (愛媛大学農学部)
P-2	マイクロプラスチックのメダカへの摂食特性と体内滞留時間 ○世羅弥江子, 岡崎友紀代, 笠原晴海, 鎌迫典久 (愛媛大学農学部)
P-3	ジアゼパムとマイクロプラスチックの複合暴露がヒメダカの発音に及ぼす影響 ○高村匠 ¹ , 上野雄 ¹ , 姜益俊 ¹ , 島崎洋平 ¹ , 大嶋雄治 ¹ , 邱旭春 ² (¹ 九州大学大学院農学研究科, ² 江蘇大学)
P-4	ゼブラフィッシュを用いたインビボおよびインシリコ解析によるビスフェノール類の内分泌攪乱作用の評価 ○久保田彰 ¹ , 平野将司 ² , イゼスン ¹ , 中村倫子 ¹ , 芳之内結加 ³ , 岩田久人 ³ , 川合佑典 ¹ (¹ 帯広畜産大学獣医学研究部門, ² 熊本県立大学生物化学システム工学科, ³ 愛媛大学沿岸環境科学研究センター)
P-5	メダカの初期生活段階毒性試験に基づく臭素系ダイオキシン類の相対毒性強度 (REP) の算出 ○藤岡直人 ¹ , 徳住英彰 ¹ , Nguyen Minh Tue ² , 浦丸直人 ³ , 鈴木剛 ⁴ , 仲山慶 ² (¹ 愛媛大学 理学部 生物学科, ² 愛媛大学 沿岸環境科学研究センター, ³ 日本薬科大学 薬学部 薬学科, ⁴ 国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター)
P-6	藻類とミジンコに及ぼす陰イオン界面活性剤の影響: 繁殖阻害と表現型の変化 ○小田悠介 ¹ , 坂本正樹 ² , 宮原裕一 ¹ (¹ 信州大学大学院・総合医理工学研究科, ² 富山県立大学大学院・工学研究科)
P-7	Differential responses of deep-sea hydrothermal vent Epsilonproteobacteria to heavy metals in a laboratory experiment ○Angela Ares Pita ¹ , Takuro Nunoura ² , Sanae Sakai ³ , Margaret Mars Brisbin ¹ , Yoshiteru Iinuma ⁴ , Toshio Sasaki ⁵ , Satoshi Mitarai ¹ (¹ Marine Biophysics Unit, Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University (OIST), ² Research and Development Center for Marine Biosciences, Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology (JAMSTEC), ³ Department of Subsurface Geobiological Analysis and Research (D-SUGAR), JAMSTEC, ⁴ Instrumental Analysis Section, OIST, ⁵ Imaging section, OIST)
P-8	フタホシコオロギの嗅覚学習に対するイミダクロプリドおよびニテンピラムの影響 ○松田悠汰, 岡田二郎 (長崎大・水環研究科)
P-9	単回投与試験によるコウモリの抗凝血系殺鼠剤リスクアセスメントの実施 ○真砂皓大 (北海道大学・大学院獣医学研究科 毒性学教室)
P-10	ニホンウズラにおける 4 種の環境汚染物質の生体蓄積性の比較 ○大原匡史, 梅田景子, 小林久人, 伴瀬恭平, 内田一成, 伊藤雅也 ((一財) 生物科学安全研究所 事業部)
P-11	ペルフルオロオクタン酸のニホンウズラにおける生体蓄積性 ○小林久人, 伴瀬恭平, 大原匡史, 梅田景子, 内田一成, 伊藤雅也 ((一財) 生物科学安全研究所 事業部)
P-12	小型魚類の病理標本作製のための固定方法の検討Ⅱ ○三木雅代, 大石法男, 中村英子, 古海茜, 水橋福太郎 (株式会社安評センター)
P-13	メダカの胚を用いたダイオキシン類の相対毒性強度(REP)を求めるための試験法の検討 ○徳住英彰 ¹ , Nguyen Minh Tue ² , 藤岡直人 ¹ , 浦丸直人 ³ , 鈴木剛 ⁴ , 仲山慶 ² (¹ 愛媛大学 理学部 生物学科, ² 愛媛大学 沿岸環境科学研究センター, ³ 日本薬科大学 薬学部 薬学科, ⁴ 国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター)

P-14	魚類毒性研究のための金属ナノ粒子の SP-ICP-MS 分析手法の開発 ○武島綾香 ¹ , 片岡知里 ^{2,3,4} , 柏田祥策 ^{1,2} (¹ 東洋大学・生命科学部, ² 東洋大学・生命環境科学研究センター, ³ 日本学術振興会特別研究員, ⁴ 国立水俣病総合研究センター)
P-15	4-t-オクチルフェノールのメダカ拡張世代繁殖試験 (MEOGRT) ○山口直子 ¹ , 駕田啓一郎 ¹ , 高橋明歩 ¹ , 新倉良之 ¹ , 三野美都里 ¹ , 押岡香 ¹ , 渡部春奈 ² , 新野竜大 ¹ , 山本裕史 ² , 鎌迫典久 ³ (¹ L S I メディエンス, ² 国立環境研究所, ³ 愛媛大学)
P-16	シマミミズを用いた生態毒性試験方法の検討 ○森田隼平 ¹ , 三浦史 ¹ , 吉村奈緒子 ¹ , 三野美都里 ¹ , 押岡香 ¹ , 渡部春奈 ² , 新野竜大 ¹ , 山本裕史 ² , 鎌迫典久 ³ (¹ L S I メディエンス, ² 国立環境研究所, ³ 愛媛大学)
P-17	限られたデータから種の感受性分布を推定する方法の開発 ○Sorgog Kiyan, 岩崎雄一 (産業技術総合研究所 安全科学研究部門)
一般発表 (ポスター賞審査対象外)	
P-18	The vector effect of microplastic on anthracene bioaccumulation in Japanese medaka (<i>Oryzias latipes</i>) ○Souvannasing Saovany ¹ , 赤坂愛実 ² , 鈴木康之 ² , 石橋猛 ² , 井上義之 ² , 早稲田真未 ¹ , 島崎洋平 ¹ , 大嶋雄治 ¹ (¹ 九州大学大学院農学研究院, ² (一財)化学物質評価研究機構)
P-19	環境化学物質の生物影響評価における AOP 解析の必要性 —メダカによるベンゾピレンの影響評価— 内田雅也 ¹ , ○富永伸明 ¹ , 石橋弘志 ² , 平野将司 ³ , 小山次朗 ⁴ , 有菌幸司 ⁵ (¹ 有明高専, ² 愛媛大農, ³ 熊本高専, ⁴ 鹿児島大, ⁵ 熊本県大)
P-20	ヒラメにおけるペルフルオロオクタンスルホン酸の蓄積性と毒性影響 ○佐藤根妃奈 ¹ , 陳盈光 ² , 浅川修一 ² , 潮秀樹 ² (¹ 新潟食農大, ² 東大院農)
P-21	海藻類の増殖に及ぼす防汚剤の有害影響 ○岡村秀雄 ¹ , 安田諒子 ² , 乾秀之 ³ , Vladimir P Beskoski ⁴ , 川井浩史 ¹ (¹ 神戸大学内海域環境教育研究センター, ² 神戸大学大学院海事科学研究科, ³ 神戸大学バイオシグナル総合研究センター, ⁴ University of Belgrade)
P-22	オオミジンコ急性毒性を用いたマイクロカプセル剤農薬の影響評価 ○三澤和文, 岡崎友紀代, 鎌迫典久 (愛媛大学大学院・農学研究科生物環境学専攻)
P-23	ニッケルに対する <i>Daphnia</i> 属ミジンコの感受性の種間差と水質による影響 ○眞野浩行, 篠原直秀 (産業技術総合研究所 安全科学研究部門)
P-24	LAS のモデル推定濃度と河川底生動物群集の種数及び個体数の関係: 有機汚濁の程度による層別化 ○岩崎雄一 ¹ , 本田大士 ² , 西岡亨 ² , 山根雅之 ² (¹ 産業技術総合研究所, ² 花王株式会社)
P-25	淡水産ヨコエビを用いた田園地域河川底質の毒性評価 ○日置恭史郎, 渡部春奈, 斉藤佳織, 山本裕史 (国立環境研究所)
P-26	農薬製剤のユスリカ幼虫急性遊泳阻害試験—剤型の異なる農薬製剤3種類の毒性比較— ○久樂喬 ¹ , 松浦武 ¹ , 安藤浩美 ¹ , 関雅範 ¹ , 木村穰 ² , 石原悟 ² (¹ (一財)化学物質評価研究機構, ² (独法)農林水産消費安全技術センター))
P-27	カテゴリーアプローチによる生態毒性情報付与の試み —ナトリウム=アルキル (C=8~18) =スルファートを例に— ○安達竜太, 小野美香, 吉川真弓, 松浦武, 関雅範 ((一財)化学物質評価研究機構)
P-28	生態毒性データの統計解析手法の標準化へ向けての課題整理 ○林岳彦 (国立環境研究所)
P-29	Inter-stage flow matrix: a new population statistic in ecological risk assessment ○Hiroyuki Yokomizo ¹ , Keiichi Fukaya ¹ , John G. Lambrinos ² , Yuka Kawai ³ , Takenori Takada ³ (¹ NIES, ² Oregon State Univ., ³ Hokkaido Univ.)

企画セッション①

「環境毒性学の今昔～先輩研究者に聞く」

9月26日（木）10:10～12:10 A会場（大山記念ホール）

概要と目的

日本環境毒性学会の設立当時から関わっておられた先輩研究者に、

1. 環境毒性学の今昔（共通点と相違点）
2. 現役の環境毒性学に関する研究者、学生に期待すること
3. 日本環境毒性学会に期待すること

について、15分程度でお話いただきます（質疑応答込みで20分）。現役の研究者や学生、ならびに学会に期待することをご自身のご経験も合わせてご提言いただくとともに、意見交換させていただき、日本環境毒性学会の目標である「化学物質等の生態系影響に関する研究の進歩と普及をはかる」の一助となればと思います。

プログラム

- | | |
|-------------|--|
| 10:10～10:30 | 日本環境毒性学会の設立当時について～事務局サイドからふりかえる～
菅谷芳雄（国立環境研究所） |
| 10:30～10:50 | バイオアッセイ研究の今昔
～バイオアッセイの環境毒性評価適用への黎明期
西村哲治（帝京平成大学） |
| 10:50～11:10 | この50年をふり返って
菊地幹夫（元 神奈川工科大学） |
| 11:10～11:30 | 水産学から見た環境研究
小山次朗（元 鹿児島大学） |
| 11:30～11:50 | バイオアッセイの環境管理への適用を目指して
楠井隆史（元 富山県立大学） |
| 11:50～12:10 | バイオアッセイ防備録
有蘭幸司（熊本県立大学） |

特別シンポジウム

「化学物質に関わる環境政策の現場から」

9月26日（木）14:00～17:00 A会場（大山記念ホール）

概要と目的

官民学の研究者および環境省の化学物質評価・管理に関わる部署の担当者から、

1. 現在の化学物質関連の環境政策について
2. 環境毒性学会に期待すること・すべきこと
3. 期待される環境毒性研究について

などを15分程度で話題提供をいただき、その後、パネルディスカッションを行う。

プログラム

- | | |
|-------------|--|
| 14:00～14:15 | 開催趣旨説明、
環境省推進費および環境行政に期待すること～国研の立場から
山本 裕史（（国研）国立環境研究所環境リスク・健康研究センター） |
| 14:15～14:30 | 環境省推進費および環境行政に期待すること～大学研究者の立場から
大嶋 雄治（九州大学 農学研究院） |
| 14:30～14:45 | 日化協の取り組み～LRIの紹介
稲若邦文（日本化学工業会） |
| 14:45～15:00 | 化学物質審査規制法について～現在の技術的課題と新たな研究への期待
櫻井希実（環境省化学物質審査室 室長補佐） |
| 15:00～15:15 | 農薬取締法に基づく農薬登録基準設定について
～水産動植物の被害防止に係る農薬登録基準の設定
上迫大介（環境省農薬環境管理室 室長補佐） |
| 15:15～15:25 | 休憩 |
| 15:25～15:40 | 化学物質のリスク評価に向けた課題の検討（内分泌かく乱作用、PPCPs及び複合影響に関する検討状況）
山崎邦彦（環境省環境保健部 環境リスク情報分析官） |
| 15:40～15:55 | 化学物質の環境リスク初期評価について
鈴木克彦（環境省環境リスク評価室 室長補佐） |
| 15:55～16:10 | 最近の水環境行政の動向について
～水質汚濁に係る環境基準、生物応答試験を用いた排水の評価手法
伊藤史雄（環境省水環境課 課長補佐） |
| 16:10～17:00 | 総合討論（パネルディスカッション） |

企画セッション②

「環境リスク評価における(Q)SAR 活用の現状と未来」

9月27日（金）9:30～12:00 A会場（大山記念ホール）

概要と目的

（定量的）構造活性相関 ((Quantitative) Structure-Activity Relationship: (Q)SAR)とは化学物質の構造と化学物質の活性との間の相関であり、この相関を利用することにより、化学物質の構造からその活性の予測が試みられている。

(Q)SAR モデルの開発は、おおよそ半世紀前に始められ、当初は薬学における薬効の予測が主であったが、その後、化学物質の有害性や、分解性、蓄積性への予測へとその利用が広がってきた。一般に、モデルの開発は経験的に知られてきた関係を理論的に説明するといった基礎研究的な観点や、データギャップの補完を行いそれ以上のデータ取得を節約するといった実利的な観点といった、様々な目的の元になされる。

しかし、(Q)SAR が実務的に用いられるためには幾つもの課題を解決しなければならない。全てを完璧に予測するモデルは存在し得ない。一方で、モデルは何らかの結果を出力する。それ故に、モデルの出力結果を単純に利用するのではなく、モデルの限界や許容される予測精度等、多面的な検討とその理解が必要となる。

既に幾種かの(Q)SAR モデルが化学物質のリスク評価の分野で開発されているものの、それらモデルの得意、不得意について、十分な知見が広く共有されているとはいいがたい。本セッションではさまざまな分野における専門家の方々をお招きして幅広い話題を提供して頂くことで、(Q)SAR の現状について理解を深め、将来の利活用に向けて知識を共有することを目的とした。

プログラム

- 09:30～09:40 趣旨説明
大嶋 雄治（九州大学 農学研究院）
- 09:40～10:15 化学物質規制における QSAR 活用の動向
櫻谷 祐企（（独）製品評価技術基盤機構）
- 10:15～10:45 生態毒性予測の活用と適用範囲
古濱 彩子（（国研）国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター）
- 10:45～11:15 ヒト健康リスク評価のための QSAR 研究の課題
竹下 潤一（（国研）産業技術総合研究所 安全科学研究部門）
- 11:15～11:45 新しい評価系でリスク評価フローを組み替える～歴史的経緯からの示唆
藤井 健吉（花王安全性科学研究所レギュラトリーサイエンスプロジェクト）
- 11:45～12:00 自由討議
司会：大野浩一（（国研）国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター）

自由集会

9月25日（水）17:20～19:00 A会場（大山記念ホール）

プログラム

①企業紹介コーナー（17:20～18:00）

付設展示にご出展いただいた企業の皆様に、展示物や事業内容などについてご紹介いただきます（発表＋質疑＝10分）。

司会：国立環境研究所 山岸隆博

- | | |
|-------------|-------------|
| 17:20～17:30 | 柴田科学株式会社 |
| 17:30～17:40 | 株式会社イワキ |
| 17:40～17:50 | 浜松ホトニクス株式会社 |
| 17:50～18:00 | 株式会社プリス |

②SETAC-Japan コーナー（18:00～19:00）

一般社団法人セタックジャパン（SETAC Japan）の活動の一環として、今年5月に開催された SETAC Europe 30th Annual Meeting（2019/5/26-30, Helsinki, Finland）の参加報告や、これから開催される SETAC の Global Meeting（North America 40th Annual Meeting など）の開催案内などを行います。

SETAC-J 代表理事 有蘭幸司（熊本県立大学）

司会：国立環境研究所 山本裕史

- | | | |
|-------------|---------------------------------------|----------------------|
| 18:00～18:10 | SETAC-J について | （代表理事 有蘭幸司） |
| 18:10～18:40 | SETAC Europe 30th Annual Meeting 参加報告 | （国立環境研究所 大野浩一、日置恭史郎） |
| 18:40～19:00 | 今後の SETAC Global Meeting の開催案内 | （代表理事 有蘭幸司） |

～国立環境研究所 施設見学会のお誘い～

国立環境研究所では、生態影響試験に使用する魚類、甲殻類、藻類などの水生生物の継代飼育、系統保存をおこない、研究、開発、教育のために分譲しています。第25回日本環境毒性学会研究発表会で国立環境研究所にお越しの際に、水生生物の保存と分譲をおこなっている施設を見学しませんか？

【場所・時間】

場所：国立環境研究所 水環境実験施設（通称アクアトロン）、微生物系統保存施設

時間：9月27日(金) 13:30～14:30 ※

※同時時間帯に農薬勉強会が実施されており、農薬勉強会と見学会のどちらか一方にしかご参加いただけません。ご了承ください。

参加者（25名まで）を二手に分け、各施設を入れ替わりで30分ずつ見学致します。アクアトロンでは魚類、甲殻類、水草などを飼育し、微生物系統保存施設では藻類の保存をおこなっています。各施設の詳細については下記のウェブページをご参照ください。

✓ アクアトロン：<https://www.nies.go.jp/kenkyu/yusyo/suisei/list.html>

✓ 微生物系統保存施設：<https://mcc.nies.go.jp/index.html>

【集合場所・時間】

場所：大山ホール前（2階ポスター会場）

時間：9月27日(金) 13:20

【料金】 無料

【参加申し込み先】

e-mail: referencelab.risk@nies.go.jp

参加をご希望の場合は、こちらのメールアドレスにご連絡をお願いします。複数人まとめて申込される場合は、参加人数をお知らせください。

9月23日(月)までにメールにてお願いします。参加人数の上限25人に達し次第、受付を終了させていただきます。



【地図】

